第２回　境港市まちづくり若者委員会　会議録（要旨）

　日　時　　平成３０年２月９日（金）午後１時３０分～午後４時１５分

　場　所　　境港市役所第３会議室

　出席者　【委　員】

　　　　　　赤石委員長、竹下副委員長、遠藤（大輔）委員、

大坂委員、竺長委員、阿部委員、遠藤（緑）委員

　　　　　【　市　】

　　　　　　中村市長、木下防災監、

山田自治防災課長、足立自治防災課課長補佐兼自治防災係長

　傍聴者　　なし

　＜次　第＞

１　開会

２　オリエンテーション

　　・事業説明

３　本日のテーマ「防災」に係る市の施策説明　　　　　　資料１

４　委員による意見交換・討議

５　市長と委員との意見交換

６　閉会

＜会議録（要旨）＞

◆次第１～４は省略

◆次第５　市長と委員との意見交換

司会：自治防災課長）ここからは、市長と委員の皆さんとの意見交換の時間に移りたいと思います。

それでは、市長から一言お願いします。

市長）皆さん、こんにちは。２回目のまちづくり若者委員会にご出席いただきありがとうございます。

境港市は、環日本海オアシス都市を将来の都市像として掲げてまちづくりを進めています。これは砂漠の中のオアシスのように、人やモノやお金や情報が盛んに行き交って活力のあふれる地域であるとともに、人々がやすらぎや潤いを感じながら安心して暮らせるまちをイメージしたものであります。

今、境港は貿易港、漁港、空港の三つの港を核として、本当に賑わいを　　見せてきております。加えて水木しげるロードは、リニューアル工事中でありながら２００万人を超える観光客にお越しいただき、好調を維持しております。

また、一方で大切なことは、このエリアの中で皆さんが本当に安心して暮らせる地域作りができているかということであり、これも大変重要です。

本日テーマである「防災対策」は、本当に大切なことであり、このテーマを選んでいただき、大変ありがとうございます。

今日は防災対策について若い皆さんから、率直な意見をどんどん出して　いただき、防災の取り組みをより市民に身近な、実効性のあるものとしたいと思います。遠慮なく、意見を言っていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

司会）ありがとうございました。

続きまして、委員長から本日、委員の皆さんで話し合われた中から、主なご意見ご提案について、ご発言ください。

委員長）それでは、本日、防災対策について市の担当者から説明を受けた後、委員の間で話し合った中から、主な意見等を報告します。

■防災行政無線について

「防災行政無線が聴こえにくい。」という意見がありました。

出雲市の知人宅には戸別受信機があって便利だという発言もありましたが、境港市では、トリピーメールで放送内容を配信していると聞いたので、今後は活用したいと思います。自分たちから情報を得る努力もしていきたいと思います。

　　■今月の大雪と除雪の問題について

市が幹線道路などは除雪していますが、狭い道路では雪が深く積もっていて外に出られない状況でした。

除雪においても、自助と共助、そして市との連携も大切ではないかと思います。

　　　　公民館で自治会などに小型除雪機の貸し出しすることが市報に掲載されていたそうですが知りませんでした。

　　■防災への関心を高めることについて

住みやすいまちづくりには安心安全は欠かせませんが、若年層は防災に対する関心が低いと思われます。今回の大雪でも周りに目を向けて協力していけるとよい思います。

防災への関心を高めるため、親子で参加できる防災訓練や、若者が参加しやすい機会を作ってほしいと思います。

また、婚活イベント中に防災訓練を取り入れるなど、体験型イベントを企画されたら良いと思います。

■弾道ミサイルに対する危機管理

　　　　韓国では防毒マスクが駅に吊り下げてあるなど北朝鮮ミサイルへの防災意識が高いですが、境港でも対策を考えないといけないという声もありました。

市長）自然災害の発生は防げない中、一番大事なのは、いかに被害を軽減するかです。自らが自分の身を守り、近所で助け合うことが重要です。災害が大きいほど公助の手はなかなか届かないものであり、普段から防災意識を高めていくよう、啓発に取り組んでいかなければなりません。

今回の除雪も生活道路の除雪まではなかなか手が回りません。苦情の電話も多数いただいていますが、市道の３４％は除雪しています。その他の道路については機械も人手も無い状況です。生活道路の除雪は市民の皆さんにお願いしており、高齢者宅等の対応は、状況によって市でも対応しています。

はまるーぷバスの運行経路も除雪していますが、今回は降り始めた日の午前中は止まりました。

まずは市民の安心安全を第一に知恵をしぼっています。

防災行政無線は、現在、更新計画を進めており、高齢者世帯等では戸別受信機の導入も検討していきます。

委員）最近、防災行政無線放送のメール配信があることを知り、登録しようとしたが、メールで登録するとは分からず、アプリで検索していたが見つからず困っていた。若者はアプリを使うのでトリピーメールもアプリにしたらどうかと思います。

市長）これは、鳥取県のシステムを利用して行っているところです。

メール配信の登録については、若い人はよいが、高齢者などには難しく、市役所や公民館でメール登録の説明をさせてもらっています。

市長）今回の大雪で、上道町では自主防災組織が透析患者のお宅を除雪されました。地域の防災力であり、このような取り組みがどんどん広がってほしいと思います。公助が届くまでには時間がかかりますので、若い人に地域の防災力に加わってもらえば大変な力になります。私が子どもの頃は、大人から子供まで皆で除雪を行ったものでした。

委員長）水木しげるロード振興会からの発信で、今回は除雪を行いました。

年配の方からの発信でしたので、今後は若者から発信できればと思っています。

市長）何かを皆ですると絆が深まります。災害だけではなく、それが地域づくりで大切になってきます。

委員）無関心な人も多く、知ろうともしてない状況もあります。けど困ったら助けてもらいたいと思っています。

　　自分から自主防災組織の活動に入っていけたらいいと思います。いろいろ周知してもらいたいと思います。

市長）自分たちの住んでいるまちは自分たちで考え、作り上げていくことがまちづくりの基本です。協働のまちづくりで、既にいろいろな取り組みをしていただいていますが、市民のみなさんや企業、団体がそういう気持ちになれば住みよいまちになると思います。

行政にどんどん意見をいただきたい。職員も一生懸命やっていますが、足りないところもあるので、耳が痛くなるほど言ってください。

委員）もっと市民に協力をお願いしてもいいのではないかと思います。

上道保育所の近くも市役所の方ががんばって除雪をしていました。

委員）毎年一度は必ず防災ハンドブック等を読む日というのを設定したらどうかと思います。せっかく良い資料があるのにもったいないと思いました。

市長）防災意識を高めることが大切です。いつどこで、どのような災害がおこるかわかりません。そのために普段から気を付けて万が一に備えることが大切です。市民の皆さんからも意見をどんどん言っていただくとありがたいです。

委員）災害は実害を受けないとわからないところがあります。

津波ハザードマップも作ってあり、津波避難訓練も参加したことはありますが、実際に津波が来たらパニックになると思います。

市長）境港市は三方が海に開かれたまちなので、津波もだが、高潮もあって、外江や渡地区は対策が必要となります。

委員）防災対策の中では、観光客が大勢いる時の対応や道路の渋滞、避難所の開設・運営など考えないといけないがきりがないですね。

市長）原子力災害を考えると、松江市美保関町や八束町などからの避難経路にもなるので米子までの高規格道路も検討しています。

境港から米子ＩＣまで４０分かかりますが、重要港湾から最寄りのＩＣまで時間としては、全国ワースト１であり、物流の効率化も悪い状況です。将来、高規格道路ができれば、避難路としても避難時間が短縮されます。

司会）それでは、終了の時間になりましたので、そろそろまとめていただきたいと思います。

市長）市の課題を皆さんに学んでいただいて、今後もご意見をいただけたらと思います。３０年度もよろしくお願いします。ありがとうございました。